

イノベーション創出の拠点

KU-CIC

イノベーション創生センター

Kansai University
Center for Innovation &
Creativity

NEWSLETTER

CONTENTS

Open Lab

研究室のイマ
環境都市工学部 / 田中俊輔教授

Portrait

未来を担うイノベーターズ
商学部3年次生
(NPO法人日本サステナブルイノベーターズ)
西田 悠人さん

2026年度KUGAP採択者紹介
総合情報学部 / 林 勲 教授
システム理工学部 / 鈴木 哲 准教授
環境都市工学部 / 飛田 哲男 教授

News & Topics

イノベーターズトーク
起業サポートシリーズ
企業見学会シリーズ
アントレプレナーシップ醸成セミナー
研究者向けセミナー

今後のイベントスケジュール
「Mission Lounge」活動報告
「起業ハンドブック」を発刊
支援ベンチャーの活動報告
編集後記

社循環 会環 へ。する

Open Lab

→ 研究室のイマ



CO₂を効率よく分離・回収できるゼオライト CO₂を「資源」にできる社会をつくりたい!

関西大学 環境都市工学部 エネルギー環境・化学工学科
田中 俊輔教授 博士(工学)

ノーベル化学賞受賞の「MOF」と同様の機能を、 産業分野で広く利用されているゼオライトで実現

2025年のノーベル化学賞は、金属イオンと有機分子を組み合わせた多孔性材料MOF(金属有機構造体)を開発した京都大学高等研究院特別教授・北川進氏ら3名に授与されました。

MOFは、CO₂などの分子を選択的に捕捉・貯蔵できる「ゲート吸着型」機能を持っています。分子が近づくと自ら構造をわずかに変えて、分子を包み込むように取り込む、いうならば“呼吸する材料”です。分子を捕捉・貯蔵できる機能は、カーボンニュートラル(Carbon Neutrality)や環境汚染物質除去などへの貢献が期待されています。

私たちは、MOF特有の現象と考えられてきたこの機能を、すでに産業分野で広く利用されているゼオライトにも持たせることに成功しました。

MOFは有機分子を含んでいますが、ゼオライトは酸素とケイ素、あるいはアルミニウムからなる無機骨格の鉱物です。天然のものは「沸石」(ギリシャ語が語源でzeo(沸騰する)、lithos(石))とも呼ばれ、特徴的なその多孔質構造が、物質の吸着・分離を促す性質を持ちます。乾燥剤や脱臭剤、土壌改良材、水質浄化、工業用触媒など、すでに幅広く利用されています。

私たちはそのゼオライトに材料設計と構造制御を施し、細孔内でイオンを可逆的に移動させる仕組みを組み込みました。その結果、CO₂分子だけを選んで効率よく捕捉できる性質を持たせることができたのです。このように従来のゼオライトの枠を超え、新たな機能を獲得したゼオライトを、親しみとちょっとした遊び心を込めて「シン・ゼオライト」と呼んでいます。それは材料そのものというより、「ゼオライトの進化形」を示す概念です。

排出総量が圧倒的に多いのは、中小規模施設 しかし、その対策は未着手のまま

2025年2月、日本政府は「2035年度に温室効果ガスを2013年度比で60%削減する」という野心的な目標を閣議決定しました。しかし、それを実現するには相当な努力が必要とされています。

CO₂の排出源の代表的なものには、火力発電所や大規模工場などがあります。しかし、これらの大型施設のCO₂排出対策には、すでに化学吸収法という技術が実用化されています。

CO₂排出問題を、排出源ではなく排出量の視点からみると、実は大型施設からの排出総量よりも、自治体のごみ焼却炉や中小規模の工場からの排出総量の方がはるかに上回っています。一つひとつの排出量は少なくとも、排出源の数が圧倒的に多いため、トータルの排出量は多くなるのです。しかも、この中小規模の排出源に対するCO₂の分離・回収技術の研究開発は、ほとんど進んでいないのが現状です。「シン・ゼオライト」は、こうした領域にこそ力を発揮できると考えています。

社会実装への見通しは、研究レベルではクリア 工場で機能するのか、実用実験を急ぎたい!

ゼオライトはすでにさまざまな分野で産業利用されているものではありませんが、CO₂を吸着・分離し、さらに資源化するまでを担わせるとなれば、まだまだ乗り越えなければならないことがたくさんあります。

社会実装に向けて、一番急がねばならないのは実用実験です。研究室レベルの実験では見通しがつきましたが、これが本物の工場で機能するのか。たとえば、研究室では純度の高いCO₂を使って評価しますが、工場で排出されるガスにはCO₂以外にも

いろんなものが含まれています。そこでうまくCO₂だけを吸着・分離することができるのか、これは実際に実用実験で確かめるしかありません。現在、私たちはイノベーション創生センター(CIC)のシン・ゼオライト開発室において研究を進めています。研究室レベルでは可能性を示すことができました。次の段階は、現場で本当に機能するかを確かめることです。

研究開発は、社会の役に立ってこそ価値がある 伴走してくれるCICや社会連携部に感謝

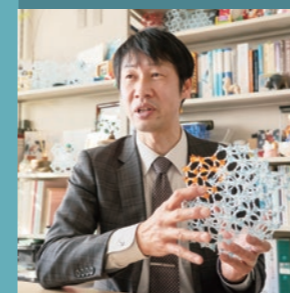
研究開発は、社会の役に立ってこそ真価を発揮します。しかし、こうした研究シーズを社会実装へと導くには、現場のリアルな課題に気づき、実感をもってその課題の重さを理解することが必要です。研究者だけでは見えにくい課題を掘り起こし、一つひとつ解決していく。そのプロセスには、専門的なビジネスマネジメントの力が欠かせません。

私は、ワクワクドキドキ興奮できる研究が大好きで、この仕事に誇りと自信を持っています。多少の困難も、むしろ挑戦の喜びです。しかし、課題発見から社会実装に至るまでを統合的にマネジメントするのは、研究者だけでは容易ではありません。だからこそ、いま、CICをはじめ、社会連携部の皆様に伴走いただきながら、この挑戦を前に進めています。研究の力と社会をつなぐその支援に、心から感謝しています。

CO₂は、メタノール生成などに役立つ資源 みんなで資源を生み出せる社会の実現を!

いまのところ、CO₂は削減すべき“ゴミ”のように扱われています。しかし、分離して高純度・高濃度で管理できるようになれば、メタノールや液体燃料などに変身する“資源”となります。CO₂をただ減らす対象としてではなく、再利用・再資源化できる社会を目指して、これからもワクワクするような研究を進めていきたいと思っています。

私が最終的に描く未来は、CO₂がそうした資源となり循環する社会です。中小規模施設にとどまらず、たとえば部屋に置く空気清浄機のように、ポータブルなCO₂分離・回収・変換デバイスを各所に設置し、誰もがカーボンニュートラルに参加できる社会を実現したい。「シン・ゼオライト」は、その第一歩となる技術です。



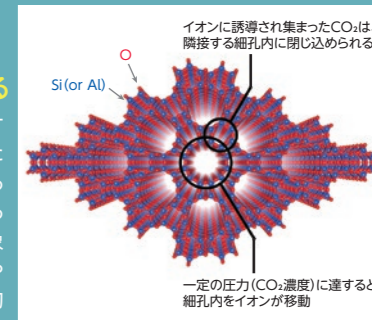
田中 俊輔教授
Shunsuke Tanaka

富山県出身
2001年 同志社大学工学部 卒業
2002年 大阪大学大学院基礎工学研究科 博士前期課程短縮修了
2005年 大阪大学大学院基礎工学研究科 博士後期課程短縮修了、博士(工学)取得
2007年 大阪大学、Purdue大学、関西大学で 博士研究員を経て関西大学に着任
2014年から1年間 Vrije Universiteit Brusselで 客員研究員として在外研究に従事
2019年 関西大学で助教、准教授を経て現職
専門はナノ材料化学、膜材料工学、分離工学。ナノ空間材料の合成法の開発とその構造・形態制御を通して、膜分離、排ガス浄化、光触媒、エネルギー貯蔵、さらには医薬工学分野への応用に取り組む。
化学工学会、ゼオライト学会、膜学会、触媒学会、吸着学会、石油学会、分離技術会に所属。2009年度化学工学会奨励賞、2017年度吸着学会奨励賞、2018年度膜学会奨励賞、2018年度矢崎学術奨励賞、2024年度関西大学「学の実化賞」を受賞。

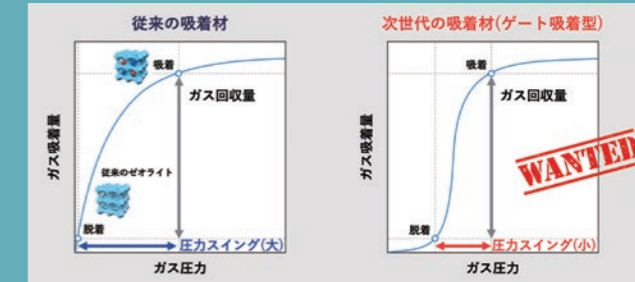
この研究の ココがスゴイ!

●「ゲート吸着型」の 捕捉機能をもつ ゼオライトができる

ゼオライトの細孔内でイオンが移動する性質を持たせ、それに誘導されて集まるCO₂分子だけを、隣接する細孔内に閉じ込める。対象分子に応じて形を変えるやわらかいMOFとは対照的に、形を変えることのない固いゼオライトは耐久性に富み、すでに多くの産業分野でも使われているため、安価に調達できる。耐久性の高い低コストのCO₂分離回収装置の実現が可能になる。



●ゲート吸着型は、一定の圧力に達すると 一気にCO₂を吸着



上記の右グラフは、今回開発されたゼオライトのCO₂の取り込み方を示す。ある一定の圧力(CO₂濃度)に達すると、内部のイオンが移動し、CO₂を細孔深部に呼び込んで閉じ込め(キャッチ)、圧力が低い時には脱着する(リリース)。

●加圧でキャッチ、減圧でリリース—CO₂回収のしくみ

CO₂を回収する圧カスイング方式の装置では、圧力を上げてCO₂を吸着させ、圧力を下げて脱着させるという操作を繰り返す。つまり、加圧してキャッチし、減圧してリリースするサイクルを絶えず続けることで、CO₂を回収している。従来の吸着材は、圧力が上がるにつれて徐々にCO₂を取り込む。しかし一度取り込むと、なかなか手放してくれない。そのため、吸着と脱着のたびに大きく圧力を変えなければならず、そのたびに多くのエネルギーを消費してしまう。小さな圧力変化で吸着・脱着を反復できるなら、それだけ効率のよい分離・回収が可能になる。



CO₂をはじめ、窒素(N₂)や酸素(O₂)などのさまざまなガスをゼオライトに供給し、吸着・脱着度をシミュレーションする

ファッションを通じて患者さんを笑顔に! アパレル廃棄問題と患者のQOL向上を解決する仕組みづくり

▶ 脱・廃棄前提のビジネスモデルとエシカルな消費行動の啓発 ▶ 将来は、医療行政や病院経営の課題解決に取り組みたい

この活動は、東京に住んでいた高校生の頃、友人と2人で始めました。現在は関西に拠点を移し、2025年6月にNPO法人化し、約25人で活動しています。

活動の概要は、余剰在庫が新品のまま廃棄されるアパレル衣料を、病棟で画一的な生活を送る小児患者に届け、病氣と闘う勇気と笑顔を取り戻してもらうというものです。これだけ話すとボランティア活動と思われがちですが、そうではありません。これは廃棄されるはずだった衣類に新たな「社会的価値」を創出することで、アパレル廃棄問題解決と患者のQOL向上を目指す事業活動です。

アパレル業界では昨今、作られた衣料の約半分が廃棄されているとの推計があります。ブランド価値を守るために安売りはしないといった事情はあるものの、実はその衣料の廃棄処分によるCO₂排出量は石油産業に次ぎ第2位と言われ、看過できない状況です。これはアパレル業界だけの課題ではなく、流行を追い求め、短期間で服を使い捨てる私たち消費者の行動も悪循環の一端を担っていると言え、私たち自身の課題でもあるのです。

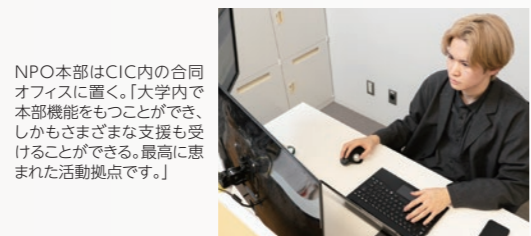
一方の小児科病棟に眼を向ければ、子どもたちは学校に行くことも友だちと遊ぶこともできず、コロナ禍では面会制限でお父さん・お母さんに会うことすらままならなかった。現在も感染症対策の観点から人との接触は制限され、孤立感や不安感が募りやすい環境にいます。そんな中、子どもたちに新品の服を届ける活動をとおり、画一的な入院生活に彩りを加え、ファッションを通じて個性を發揮したり、選ぶ楽しみを感じてもらい、心がウキウキする時間を過ごしてもらいたいと思っています。同時にアパレル企業に、私たちが考える仕組みをCSR(*1)やCSV(*2)の新しい選択肢として活用してもらえるなら、廃棄前提のビジネスモデルから脱却できる可能性がある。企業や行政だけでは、採算や制度の壁があり、この問題を解決することは困難です。しかし、利害関係にとらわれない市民サイドである私たちNPOが間に入ることで、悪循環から好循環へとシフトチェンジさせることができると考え、この取り組みを始めました。

初めて病院への寄付が実現したのは、私が高校3年生の時。病院は東京都昭島市の「太陽こども病院」でした。現在は関西圏の「兵庫県立こども病院」や「ドナルド・マクドナルド・ハウス神戸」、「大阪発達総合療育センター」などへの寄付を行っています。

この活動を経験して感じたこと、それは医療・病院関連の活動には多様な角度からの知識と知見が必要になるということです。たとえば、医療行政や関連する法律、衛生、物流などの知識。さらには在庫と患者さんのニーズをマッチングさせるための調査・分析など多岐に渡ります。活動する中でそれらの知識をもっと吸収したくなった。その「渴き」を感じたからこそ、昨年9月からの半年間、関大×法政大「国内留学プログラム」制度により、法政大学法学部に国内留学をしました。

関西大学を卒業したらNPOの活動は後進に譲り、大学院に進む予定です。私は中学生のころから医療制度や社会保障制度に興味があり、まじめに医療活動に取り組む病院ほど経営難に陥ってしまうのはなぜか疑問に思っていました。この活動をとおり診療報酬や労働環境のあり方などには課題や矛盾が山積していることを知りました。将来は、こうした医療行政や病院経営の課題を解決できる仕組みづくりに携わることができたらと考えています。

- (*1) CSR Corporate Social Responsibilityの略。「企業の社会的責任」と訳され、企業が利益追求だけでなく、顧客、従業員、株主、地域社会、環境などの利害関係者に対して責任ある行動をとり、持続可能な社会の発展に貢献する概念。
- (*2) CSV Creative Shared Value の略。「共通価値の創造」と訳され、企業が事業を通じて社会的な課題を解決することで創出される「社会価値(環境、社会へのポジティブな影響)」と「経済価値(事業利益、成長)」を両立させる経営戦略のフレームワーク。



NPO本部はCIC内の合同オフィスに置く。「大学内で本部機能をもつことができ、しかもさまざまな支援も受けられる。最高に恵まれた活動拠点です。」



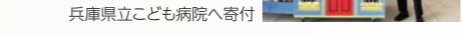
提供された衣料を前に、NPO化して以降、活動量も活動範囲も大幅に増えた



KANSAI STUDENTS PITCH Grand Prix 2025に 関西大学代表として出場



太陽こども病院へ寄付



兵庫県立こども病院へ寄付

関西大学商学部商学科
3年次生
NPO法人日本サステナブル
インベイターズ(N-SIs)理事長
西田 悠人さん

岐阜県出身
(高校在学中の活動)
2023年1月
錠剤撒き器(特許7406661)を開発し、「令和4年度パテントコンテスト」にて特許庁長官賞を受賞
アパレルの在庫廃棄に課題意識を持つと同時に、コロナ禍で孤立しがちな小児患者の環境にも着目し「ファッションを通じて患者さんを笑顔に」プロジェクトに取り組み始める
2023年8月
「高校生ボランティア・アワード2023」で鎌田賞を受賞
2023年10月
「関西大学ビジネスプラン・コンペティションKUBIC 2023」で優秀賞を受賞
2023年12月
錠剤シートリサイクル分離方法及び分離装置を開発し、「令和5年度パテントコンテスト」で優秀賞を受賞
2024年3月
日本航空高等学校/トライ式高等学校卒業
(大学在学中の活動)
2024年4月
関西大学商学部入学
関西圏に拠点を移して「ファッションを通じて患者さんを笑顔に」プロジェクトを展開
2025年2月
KANSAI STUDENTS PITCH Grand Prix 2025に関西大学代表として出場
2025年6月
NPO法人日本サステナブルインベイターズを設立し、理事長に就任
2025年9月
関西大学×法政大学「国内留学プログラム」で、法政大学法学部政治学へ留学(～2026年3月)

2026年度 関西大学GAPプログラム(KUGAP)に 3つのプロジェクトが採択されました

関西大学では、本学の研究成果をもとに起業や事業化を目指す研究者に対して支援し、新しい社会的価値の創出や広く社会的課題の解決に寄与することを目的とし、「関西大学GAPプログラム(KUGAP)」を実施しています。本プログラムでは、本学教職員や大学院生が事業化に向け、研究と事業化との間のギャップを埋めるためのPoC(Proof of Concept:概念実証)の取得、プロトタイプ製作、実証実験、さらには市場調査などを行う際に必要な費用に対して助成を行うとともに支援人材による伴走支援を行います。



実施テーマ
卓球 AI&IT イノベーション事業の創出～卓球レイティングと戦略 AI&IT 分析の事業化～

総合情報学部 林 勲教授
本事業は、卓球レイティングを用いて競技者が自身の技能を客観的に把握できるとともに、大会主催者が年齢・性別・身体的障害の有無に依らない公平な対戦環境を構築することを目的としています。さらに、卓球戦術・戦略の分析により競技力向上を支援し、大学スポーツや日本卓球界における人材育成への貢献が期待され、競技者と主催者の双方のニーズに応えるAI・ITスポーツツールとして、高い社会的価値を有する事業になることを目指します。



実施テーマ
ミリ波レーダーを用いたカテーテル代替「非侵襲計測システム」の事業化に向けた開発

システム工学部 鈴木 哲准教授
本研究グループは、心機能評価に不可欠な血流量と脈管内圧力変化の両指標を同時に推定する独自の方法を考案し、本学から特許化しており高い優位性を有しています。本計測手法は非侵襲で遮蔽物越しの計測も可能なため患者負担が少なく、小型で安価なセンサにより臨床・看護現場での活用が期待されます。さらに長期間の連続計測とリアルタイム評価により、新たな診断所見の創出や途上国・小児医療への貢献が見込まれます。



実施テーマ
光ファイバセンサを用いた管路変状モニタリング手法の開発

環境都市工学部 飛田 哲男教授
現在、我が国では上下水道管の多くが耐用年数を超過し、経年劣化による道路陥没などが社会問題となっています。本開発では、光ファイバを用いて構造物間のずれ変位を簡便かつ直接的に計測、可視化できる小型センサを構築できることを示しました。本センサは外部電源を必要とせず、簡便に地中埋設管の継手部のずれを数十年にわたり長期観測できる特長を有しています。これらの成果を踏まえ、次の段階として起業に挑戦したいと考えています。

2026年度関西大学GAPプログラム(KUGAP) 追加募集決定

支援対象: **本学専任教育職員および大学院生** 助成期間: **2026年10月から最大1年間**
募集期間: **2026年3月1日(日)～4月30日(木)** 助成額: **上限200万円**

- 申請テーマ対象: **下記の要件を全て満たすもの**
- 1 本学にて実施された研究成果に基づいていること
 - 2 本プログラム実施期間終了時に予定されている成果報告発表(Demo Day)で、申請テーマの概要・成果、事業化に向けたビジネスモデルを発表できること
 - 3 本プログラムの趣旨・目的に沿った研究開発や事業化活動を対象とし、起業前であること
- ▲詳しくはこちら



Innovator's Talk

イノベーターズトーク

起業はもちろん、就職後も必要なアントレプレナーシップ(起業マインド)を醸成するイベント。活躍されている若手起業家や企業内で起業した社会人の経験談や想いから学びます。

Vol.40 2025年10月9日 株式会社ライツ社 代表取締役社長 高野 翔氏

テーマ なぜ関大OBは本で起業したのか

関西大学文学部卒業後に出版社勤務を経てライツ社を創業した高野氏。出版不況下での挑戦と転機を語りました。赤字決算を機に「心から面白い本」を作る覚悟を固めた原体験に参加者は真剣に聴き入り、先輩からの熱い応援メッセージに背中を押される時間となりました。



学生の感想
自分の弱さ、ダメなところを開示する勇気を持つことが成功につながった。



学生の感想
「自分が面白いと思うニッチな需要」にフォーカスする戦略がかっこいい!

Vol.41 2025年12月15日 株式会社一坪茶園 CEO兼CPO 脇 奈津子氏

テーマ 社員が複業で活躍する新しい働き方～大手企業のリアル～

お茶農家を支えたい思いから起業に至った脇氏が、企業での経験と学生時代の学びを語りました。他者のために行動する信念に参加者は引き込まれ、最後は一坪茶園オリジナルブランドの試飲を交えた振り返りと温かなメッセージをもって終了しました。



学生の感想
「やらないことを決める」という逆転の発想が強く印象に残った。



学生の感想
考えて行動することの大切さを学んだので、「今を生きよう」と思う!

起業サポートシリーズ

起業に必要な知識・スキルについてセミナーおよびワークショップスタイルで学びます。

2025年12月11日
起業サポートシリーズ2025秋学期
アイデア実践ワークショップ
企画で世界を動かす!

カルチャ・コンビニエンス・クラブ株式会社(CCC)
IPプロデュース本部 本部長 久保田 加津也氏

企画の基礎と4つの価値を軸に、自身のやりたいことを企画へ落とし込むワークを実施。発表を通じて課題が可視化され、久保田氏は「好きなもので世界をつくれ」という言葉で参加者を激励しました。



学生の感想
CCCの世界観、未来感を知ることができてとても有意義だった。



4つの「企画のコアバリュー」について考えなければ企画として成立しないことを学んだ。

企業見学会シリーズ

先進的な取り組みを行っている企業を訪問し最先端の技術・アイデアが詰まった施設の見学や社員との意見交換を通して企業の新規事業について学びます。

Vol.16 2025年12月2日
タツタ電線株式会社

京都府木津川市にある技術開発拠点タツタテクニカルセンターを訪問し、独自技術を生かした研究開発を見学。技術と社会課題を掛け合わせた新規事業創出のワークショップを通じ、挑戦心と人を大切にする企業文化を体感しました。



ワークショップのとき色々アドバイスももらったことが勉強になった。
学生の感想

学生の感想
社員を大切にする施設や制度があり、長く技術開発に取り組める環境が整った企業だった。



アントレプレナーシップ醸成セミナー

2025年11月28日

関西大学大学院「考動力」・「革新力」人材育成プロジェクト
生態学者がアプリをつくる
～起業という選択肢のリアル～

株式会社パイオーム 代表取締役 藤木 庄五郎氏



生物多様性を軸に自然資本をデジタルで可視化し、環境保全市場を拓く未来像について情熱的に語られました。藤木氏は「何歳でも挑戦できる安心の選択肢として起業」の価値と覚悟を示し、参加者は熱心に耳を傾けていました。

学生の感想
人間の考え次第で、地球を救うことは実現できる課題だということが分かった。

2026年3月4日・5日

JST-START事業スタートアップ・エコシステム形成支援
関西大学イノベーション創生センター×
関西スタートアップアカデミア・コアリション(KSAC)
未来を「編集」するキャリア術

SAPPORO VIETNAM, LTD 代表取締役社長(当時) 臼井 勝彦氏

人生と仕事を軸にキャリアを考える特別プログラムを梅田キャンパスで開催。対話型のワークなどを通じて自分らしさを言語化し、社会や仕事へとつなげる行動指針を描きました。参加者は主体的に取り組み、将来へのヒントを掴んだ濃厚な2日間となりました。

学生の感想
やってみたい事を言語化し他者に話すことで、先ず何をすべきか明確になった。



研究者向けセミナー

JST-START事業スタートアップ・エコシステム共創プログラム
関西大学イノベーション創生センター×関西スタートアップアカデミア・コアリション(KSAC)

2025年9月26日
建前なし! 本音のみ! “起業”を知るセミナー
～研究成果の「社会実装」に向けて～

株式会社JIMED 代表取締役 中村 仁氏
関西大学化学生命工学部 イノベーション創生センター長 石川 正司教授
関西大学システム理工学部 小金沢 新治教授
関西大学化学生命工学部 柿木 佐知朗教授

起業経験者と起業を志す研究者らが登壇し、起業への想いとリアルを本音でトーク。学内外から50名超が参加し、研究と起業の両立について知ることができ、起業に興味のある人が多くいることに刺激を受けたなどの声が寄せられました。



2025年10月3日・10日・24日
大学発ベンチャー創出のための
ビジネスプラン作成セミナー

ITPC 代表 潮 尚之氏
株式会社Co-learning 代表取締役 竹枝 正樹氏

大学発ベンチャー創出を目的に、研究者向けビジネスプラン作成セミナー(全3回)を開催。競争的資金、用途開発、知財戦略を学び、講師の助言と対話を通じて技術シーズの事業化に向けた実践的なプラン構築を行いました。



2026 Spring

イノベーターズトーク

▶ **開催予定** 詳細は、決まり次第、SNS・チラシ等でお知らせします。

学生コミュニティ 「Mission Lounge」活動報告

2026年2月20日に開催された「KANSAI STUDENTS PITCH Grand Prix 2026」に、商学部3年次生の南田 夏輝(みなみだ なつき)さん、山下 千晶(やました ちあき)さんのチーム「蒔きどき(マキドキ)」が本学代表として出場しました。「シコウノタネ」をテーマにプレゼンテーションした結果、出場18チームの中から協賛企業賞「大阪信用金庫賞」を受賞しました。



「起業ハンドブック」 を発売

2026年3月1日付で、「起業ハンドブック」を発売しました。研究成果の社会実装として「起業」という選択肢を視野に入れた際に、何から考えればよいのか、どのような準備が必要なのかを整理した手引書であり、大学発ベンチャー設立に向けたステップガイド、チームビルディングの方法など、起業に関心を持つ方にとって必要な情報を掲載しています。イノベーション創生センターHPにて学内者限定でご覧いただけます。

支援ベンチャーの 活動報告

- ▶ 株式会社アイ・エレクトロライトが、1月28日に開催された「アドバンス・バッテリー技術研究会 2025年度公開シンポジウム『電池産業の未来戦略:市場変革・人材育成・次世代技術』」に登壇しました。
- ▶ 株式会社イノカと株式会社Dinculaが、12月4日に開催された「UniverSeeds EXPO 2025」に登壇しました。
- ▶ 株式会社Ku:Pが、2月2日に開催された「2025年度知財セミナー・ワークショップ開催事業 in 大阪」に登壇しました。
- ▶ 株式会社Dinculaが、3月17日に開催された「その研究は、事業になるのか?—大学発ディープテック創業CEOが語る、技術シーズの“見立て”と“経営のリアル”」に登壇しました。
- ▶ 株式会社ナノスパイクが、10月29日に開催された「第3回“未来を創る若者”スタートアップピッチ関西〜中堅・中小企業が共創する HealthTech & Wellbeing Challenge〜」に出場し、「バイオコミュニティ関西 奨励賞」スタートアップ分科会「スペシャルトライアル」登壇権を受賞しました。
- ▶ 株式会社nu.が、10月25日に開催された「ライフテックグランプリ2025」で「JT(日本たばこ産業株式会社)賞」を受賞しました。
- ▶ 株式会社nu.が、12月16日に開催されたビジネスプランコンテスト「SOERU(ソエル)」で、大賞(中国経済産業局長賞)を受賞しました。
- ▶ 株式会社Phindex Technologiesが、国土交通省2025年度SBIR制度に採択されました。
- ▶ 株式会社Phindex Technologiesが、12月1日から4日に開催された「ILS2025」において、「NEDOドリームピッチ【Day 1】」および「ILS TOP20スタートアップピッチ 1部」に登壇しました。

企業名(五十音順)に表示

編集後記

みなさんにとって「価値」があるものは何でしょうか?コスパやタイプといった体験価値の効果や効率を重視したり、自分の「価値」と考えた場合には、周囲の評価や承認が気になったりするのかもしれない。さて、今回のニュースレターでは繰り返し「社会的価値」といことばがでてきました。この「価値」はなにをもって誰が評価するものなのでしょうか? 個人的な意見になりますが、社会課題の解決を企図した研究者やイノベーターの方々の営為については、外部や他者からの評価や価値づけがなくても、その行動そのものに大きな「価値」があるように思いました。みなさんも、自分にとっての「価値」を考えながら記事を読み返していただければ幸いです。
(研究推進・社会連携事務局次長 工藤 亮)

関西大学 イノベーション創生センター
Kansai University Center for Innovation & Creativity

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 TEL06-6368-1250 FAX06-6368-1237
E-mail: kucic@ml.kandai.jp https://www.kansai-u.ac.jp/renkei/innovation/index.html

発行日/2026年4月1日 発行/関西大学 イノベーション創生センター

関西大学 イノベーション創生センターは、学問分野の枠組みを越え、教員・学生・企業技術者との対話や交流を実現し、本格的なイノベーション創出の拠点を目指します。

関西大学イノベーション創生センターの
『今』をご紹介します!

